

適期内の刈取りと適正な乾燥調製で食味・品質の優れた売れる米を生産しよう！

<作業のポイント>

9月1日現在の登熟は平年を大幅に上回っており、出穂の早い地帯ではすでに刈取適期に達している。

このため、適期内の刈取りと適正な乾燥調製で食味・品質の優れた売れる米を生産しよう。

刈取りは、粉の黄化程度や出穂後の日数、出穂後の積算気温等を総合的に判断して行う。

収穫作業は刈遅れのないよう計画的に行い、刈取適期内に終了する。

コンバイン等機械の整備や試運転を急ぐ。

玄米水分は15.0～15.5%に仕上げ、過乾燥を防止する。

調製・選別は、整粒歩合80%以上を目標にする。

事故のないよう農作業安全に努める。

1 農業試験場作況田における生育及び登熟状況等

(1) 生育状況

ア 「むつほまれ」の稈長、穗長、 m^2 当たり穗数は、黒石(本場)、藤坂(支場)ともに平年並みであった。

イ 「つがるロマン」は、稈長、穗長ともに過去3か年並みであったが、 m^2 当たり穗数は平年より少なかった。

ウ 「ゆめあかり」は「むつほまれ」に比べて、稈長はやや短く、穗長はやや長く、 m^2 当たり穗数は黒石、藤坂ともに多かった。

表-1 作況田の稈長、穗長、穗数 (8月31日現在)

場所	品種	稈長(cm)			穗長(cm)			m^2 /穗数(本)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
黒石	むつほまれ	78.1	77.0	70.5	17.7	17.5	17.2	453	450	402
	つがるロマン	77.6	(77.3)	68.2	18.9	(19.1)	18.2	346	(402)	356
	ゆめあかり	73.9	-	-	18.3	-	-	499	-	-
藤坂	むつほまれ	73.2	72.1	67.5	16.6	16.8	17.1	445	441	448
	かけはし	65.2	(74.3)	74.7	16.3	(17.0)	16.0	486	(487)	547
	ゆめあかり	70.4	-	-	17.3	-	-	492	-	-

注)「つがるロマン」と「かけはし」の平年値は過去3か年の平均

(2) 粉数と登熟状況(8月31日現在)

ア 「むつほまれ」の1穂粉数と m^2 当たり粉数は、黒石、藤坂ともに平年に比べて少なかった。

イ 「つがるロマン」は1穂粉数が過去3か年並みであったが、 m^2 当たり粉数は少なかった。

ウ 「ゆめあかり」は「むつほまれ」に比べて、1穂粉数は少なかったが、穗数が多かったため、 m^2 当たり粉数はやや多かった。

エ 8月31日現在の登熟歩合は、「むつほまれ」「つがるロマン」ともに平年を大きく上回り、登熟は極めて順調である。

表 - 2 作況田の穂数と登熟状況（8月31日現在）

場所	品種	1穂穂数(粒)			1m ² 当穂数(百粒)			登熟歩合(%)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
黒石	むつほまれ	83.3	90.6	86.1	377	406	356	74.9	43.1	30.2
	つがるロマン	84.0	(82.4)	81.5	291	(325)	290	76.1	(41.2)	25.8
	ゆめあかり	81.4	-	-	406	-	-	70.4	-	-
藤坂	むつほまれ	77.7	84.6	83.5	346	373	374	68.7	24.3	5.7
	かけはし	61.1	(77.5)	69.3	297	(373)	379	73.2	(14.5)	2.6
	ゆめあかり	73.3	-	-	360	-	-	58.0	-	-

注) 穂数は暫定値

「つがるロマン」と「かけはし」の平年値は過去3か年の平均

(3) 穂殻の大きさ

- ア 「むつほまれ」は、平年に比べて穂長が黒石、藤坂ともに短く、穂幅は黒石でやや広く、藤坂でやや狭くなった。
このため、穂長×穂幅は黒石で平年並みだが、藤坂では平年より小さかった。
- イ 「つがるロマン」は、過去3か年に比べて、穂長が短いが、穂幅が広く、穂長×穂幅はやや大きかった。
- ウ 「ゆめあかり」は「むつほまれ」に比べて、穂長は並みだが、穂幅がやや狭く、穂長×穂幅はやや小さかった。

表 - 3 作況田の穂殻の大きさ（8月31日現在）

場所	品種	穂長(mm)			穂幅(mm)			穂長×穂幅(mm ²)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
黒石	むつほまれ	6.94	7.29	7.13	3.53	3.40	3.48	24.5	24.8	24.8
	つがるロマン	7.11	(7.30)	7.16	3.50	(3.35)	3.39	24.9	24.5	24.3
	ゆめあかり	6.93	-	-	3.46	-	-	24.0	-	-
藤坂	むつほまれ	6.52	7.19	6.95	3.24	3.35	3.03	21.1	24.1	21.1
	かけはし	6.49	(7.11)	7.15	3.36	(3.30)	3.05	21.8	(23.5)	21.8
	ゆめあかり	6.58	-	-	3.16	-	-	20.8	-	-

注) 「つがるロマン」と「かけはし」の平年値は過去3か年の平均

2 県内の生育と登熟状況

(1) 各地域の主要品種の生育と登熟状況

- ア 穂長は、中弘南地域で平年よりやや短く、北五と下北地域で平年並みだが、他は平年よりやや長くなっている。
- イ 穂長は、中弘南、東青、北五地域で平年よりやや長いが、他は平年並みである。
- ウ m²当たり穂数は、下北地域で平年より多く、北五地域でやや多く、西地域で平年並みだが、他は少なくなっている。
- エ 1穂穂数は、東青地域でやや多いが、他は少なくなっている。
- オ m²当たり穂数は、下北地域でやや多いが、他はやや少ない～少なくなっている。
- カ 登熟歩合は、全県的に平年を大幅に上回っている。特に、例年登熟の遅れる地域で平年を大きく上回り、地域差が小さくなっている。

表 - 4 各地域の生育と登熟状況（9月1日現在）

各地域農業改良普及センター調べ

地 域	主要品種の生育状況(cm、本)					粒数(粒・百粒)		登熟歩合 1.06以上
	品種	年次	稈長	穗長	m ² 穂数	1穂当	1m ² 当	
東 青	むつぼ まれ	本年	75.0	17.8	407	86.4	350	55.4
		平年	72.7	17.3	444	82.0	365	21.9
		平年比	103	103	92	105	96	253
西	むつぼ まれ	本年	75.5	17.7	435	81.9	356	71.1
		平年	73.4	17.8	439	85.8	377	50.7
		平年比	103	99	99	95	95	140
中 弘 南	つがる ロマン	本年	79.5	18.7	378	78.1	308	75.3
		平年	82.2	18.0	417	82.1	346	25.9
		平年比	97	104	91	95	89	291
北 五	むつぼ まれ	本年	77.9	17.9	486	79.1	384	79.2
		平年	77.2	17.6	467	85.0	397	44.6
		平年比	101	102	104	93	97	178
上 北	むつぼ まれ	本年	74.3	16.9	398	75.7	303	68.0
		平年	71.2	16.8	436	81.6	346	19.6
		平年比	104	101	91	93	87	347
下 北	かけは し	本年	72.2	16.1	532	52.5	280	81.6
		平年	72.2	15.9	433	63.1	274	26.4
		平年比	100	101	123	83	102	309
三 八	むつぼ まれ	本年	75.4	16.7	402	78.7	314	74.1
		平年	73.7	16.8	446	85.0	369	26.8
		平年比	102	99	90	93	85	276
津 軽	むつぼ まれ	本年	76.2	17.8	445	82.1	364	69.9
		平年	74.5	17.6	450	84.6	381	41.4
		平年比	102	101	99	97	96	169
県 南	むつぼ まれ	本年	74.8	16.8	400	77.1	308	70.8
		平年	72.3	16.8	440	83.1	357	22.9
		平年比	103	100	91	93	86	309

注) 平年値は過去5~13か年の平均(つがるロマンは3か年、かけはしは4か年)

粒数は暫定値

(2) 「つがるロマン」と「ゆめあかり」の生育と登熟状況

ア 「つがるロマン」の生育(過去3か年の平均値比較)

(ア) 稈長は津軽地域で平年並みだが、他はやや短く、穗長は津軽地域でやや長いが、他はやや短くなっている。

(イ) m²当たり粒数は、津軽地域で平年より少ないが、他はやや多い~多くなっている。(ウ) 1穂粒数は、南部地域で平年よりやや多いが、他は少なく、m²当たり粒数は、南部地域でやや多いが、津軽地域で並み、津軽地域で少なくなっている。

(エ) 登熟歩合は、全地域とも平年を大幅に上回っている。

イ 「ゆめあかり」の生育(前年比較)

(ア) 稈長は津軽、県南地域ともに前年より長く、穗長は津軽地域でやや長いが、県南地域でやや短くなっている。

(イ) m²当たり粒数は津軽、県南地域ともに前年よりやや多いが、1穂粒数が並み~少なく、1m²当たり粒数も並み~やや少なくなっている。

(ウ) 登熟歩合は、津軽、県南地域ともに前年を大幅に上回り、特に県南地域で大きく上回っている。

表 - 5 「つがるロマン」と「ゆめあかり」の生育と登熟状況（9月1日現在）
各地域農業改良普及センター調べ

品種	主要品種の生育状況(cm、本)					粒数(粒・×100)		登熟歩合 1.06以上
	地域	年次	稈長	穂長	m ² 穂数	1穂当	1m ² 当	
つがるロマン	津地 軽域	本年	79.5	18.7	378	78.1	308	75.3
		平年	82.2	18.0	417	82.1	346	25.9
		平年比	97	104	91	95	89	291
	津地 軽域	本年	81.1	18.3	410	78.3	321	69.0
		平年	80.6	18.6	382	83.6	321	26.4
		平年比	101	98	107	94	100	261
	南地 部域	本年	74.6	17.8	388	81.9	317	68.7
		平年	78.2	18.3	382	79.0	302	26.8
		平年比	95	97	102	104	105	256
ゆめあかり	津地 軽域	本年	75.6	17.9	450	77.6	346	73.3
		前年	70.2	17.6	432	78.6	353	49.0
	南地 部域	本年	73.3	17.1	419	72.6	304	71.0
		前年	69.7	17.4	400	76.2	301	16.1
		前年比	105	98	105	95	101	441

(注) 1. つがるロマンの平年値は3か年の平均、ゆめあかりは前年比
2. つがるロマンの地域は、栽培マニュアルに基づく区分

3 これからの作業と管理

(1) 適期刈取り

ア 品種別の刈取適期幅と各地域における出穂後の積算気温到達予測日は、表 - 6、表 - 7 のとおりであるが、登熟が平年を大幅に上回り、粒数が少なめで、登熟気温も高く経過していることから、積算気温到達予測日よりも刈取適期の始期と終期が早まることが予想される。

表 - 6 品種別の刈取適期幅

品種名	刈取適期時期	備考
むつぼまれ、ゆめあかり	960 ~ 1,200	ゆめあかりは、登熟が早い
つがるロマン	960 ~ 1,150	刈遅れで茶米発生しやすい

表 - 7 各地域における積算気温960、1,150、1,200の到達日(単位:月日)

地點	出穂期	到達予想日			地點	出穂期	到達予想日		
		960	1150	1200			960	1150	1200
青森	8/ 4	9/13	9/24	9/27	十和田	8/ 2	9/13	9/25	9/28
蟹田	8/ 7	9/19	10/ 2	10/ 5	三沢	8/ 7	9/19	10/ 1	10/ 4
今別	8/ 4	9/16	9/27	10/ 1	野辺地	8/ 6	9/20	10/ 2	10/ 6
鰯ヶ沢	8/ 3	9/12	9/23	9/26	六ヶ所	8/ 6	9/19	10/ 2	10/ 5
深浦	8/ 2	9/11	9/21	9/24	むつ	8/ 6	9/19	10/ 2	10/ 5
弘前	8/ 3	9/11	9/22	9/25	大間	8/ 5	9/17	9/29	10/ 2
黒石	8/ 4	9/14	9/25	9/29	小田野沢	8/ 6	9/20	10/ 3	10/ 6
碇ヶ関	8/ 1	9/ 9	9/21	9/24	脇ノ沢	8/ 6	9/19	10/ 1	10/ 4
五所川原	8/ 3	9/11	9/22	9/25	八戸	8/ 3	9/13	9/24	9/27
市浦	8/ 6	9/17	9/29	10/ 2	三戸	8/ 1	9/ 9	9/20	9/23

注) 出穂期は、気象観測地点の所在する市町村の出穂最盛期

積算気温の到達予想日は、出穂後9月6日まで本年値、9月7日以降は平年値を使用して算出

イ このことから、積算気温到達予想日だけでなく、下記の目安を勘案して総合的に判断して刈取りを始め、適期内に終了するようとする。

(ア) ほ場全体の粉の90%が黄化したとき。

(イ) 精玄米に占める青未熟粒歩合が10%程度まで減少したとき。

(「つがるロマン」は青未熟粒歩合が15%程度)

(ウ) 枝梗の2/3程度が黄化したとき。

(エ) 粉水分が25~26%まで減少したとき。

ウ なお「ゆめあかり」は「むつぼまれ」より登熟がやや早いので、早めに刈り始めることが必要である。

また、「つがるロマン」は刈り遅れると茶米等の発生が多くなるので、積算気温で1,150までに刈取る。

エ 刈取時期が遅れると、品質・食味が低下するので刈取適期内に刈取る。

オ 倒伏した部分は、品質が低下するので、別に刈取る。

カ 刈取後、水分が高い粉を長時間堆積しておくと、ヤケ米や発酵米等の着色粒が発生し品質低下の原因になるので、早めに乾燥機に搬入する。

(2) 乾燥

ア 乾燥中の粉水分は、乾燥機による自動測定だけでなく手持ちの水分計も併用して測定し、玄米水分15.0~15.5%の適正な水分に仕上げる。

イ 粉水分が25%以上のときは、初期の送風温度を下げて乾燥し、粉水分が20%程度になってから所定の送風温度にする。

また、水分ムラや未熟粒の混入が多い場合は、二段乾燥法で行い適正な水分に仕上げる。

ウ 自然乾燥は、脱穀時期を逸しないよう注意し、降雨が続くような場合は、乾燥機で仕上乾燥を行う。

(3) 調製

ア 粉ずりは、穀温が高い状態で行うと肌ずれ米の発生が多くなるので、常温に下がったのを確認してから行う。

イ 整粒不足により品質の低下を招かないよう、米選機の機種に応じた適正な流量を守り、屑米の混入を防ぎ、整粒歩合80%以上を目標にする。

ウ 回転式米選機は、1本当たり毎時1,000kg程度の流量を基準とし、目詰まりが生じないように点検を行いながら作動させる。

(4) 採種

ア 自家採種を続けると品種の特性が失われ、品質等の低下につながるので、種子更新は毎年行う。

イ やむを得ず自家採種する場合は、異品種の混入や病害虫の発生していないほ場を選んで行う。

(5) 農作業事故の防止

ア コンバインなどの移動や粉の運搬作業等でほ場へ出入りする場合は、足場の安全を十分確かめてから行う。

イ 作業中に機械を調整したり故障等で点検・修理する場合は、必ずエンジンを停止してから行う。

―― 「つがるロマン7・8・9作戦」の展開――
たんぱく質含有率(玄米)7.0%以下、整粒歩合80%以上、
1等米比率90%以上を確保し、「つがるロマン」の銘柄確立
をしよう!

9月の重点推進事項···適期刈取(積算気温960~1,150)
···乾燥調製の適正化

次回の稻作指導情報の発行予定は9月24日です。